

極楽寺だより



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）
☎ 759-3803
山口県長門市三隅下野波瀬 3633
☎ 0837-43-0625

2019(令和元)年12月号

御正忌報恩講のご案内

阿弥陀さまの大慈悲を

あきらかにして、私た

ちに浄土往生の道を示

してくださった、ご開山親鸞聖人の九十年のご

苦勞とご恩徳を讃え、仏恩報謝の心をよせあ

つて、大切につとめさせていただく報恩講。浄

土真宗では、もっとも大事なご法要です。お

誘いあわせお参りください。



一月十四日（火） 昼一時半 夜七時

十五日（水） 昼一時半 夜七時

夜九時

十六日（木） 昼一時半

※ 十六日は親鸞聖人のご命日です。

特に大切に勤めます。

報恩講お斎のご案内

次の通り、お斎のご案内を申し上げます。

【十四日】

〔昼〕

向山・久原・土手

中村・大竹・市・湯免

下中小野・辻並

〔夜〕

野波瀬西側

（五〜十三班）

【十五日】

〔昼〕

豊原・平野・浅田・沢江

上ゲ・殿村・上東方

下東方・小島・町外

〔夜〕

野波瀬東側

（一〜四班）

室生

※ 十六日は、お斎はありません。

※ 都合の悪い方は、指定以外の日にお参りされても構いません。

お斎受付のお願い

野波瀬の世話人の方は、毎年のように担当

区域の、お斎受付のお世話をお願いします。

御正忌報恩講とは



親鸞聖人が亡くなられた日をご縁として開かれる法要です。親鸞聖人は七五〇年も前に亡くなられましたが、聖人がその一生をかけて明らかにされたお念仏の教えは、それを「よりどころ」とし生きる力とした、たくさんの念仏者を生み育ててきました。私たちの先輩方は、この御正忌という法要を一番大切にされ、人生における本当に尊いことを聴聞されたのです。門徒みんながこの御正忌にお参りすることが、慣わしでもありました。十五日には、夜の座の後に午後九時の通夜法座もあります。（平成六年までは、十六日朝五時のお朝事まで、徹夜でお番をするお通夜を、極楽寺でも勤めていました。）毎年御命日には、記念写真を撮っています。ぜひ、お参り下さい。



2019年の十六日
御命日参拝者

お寺のお世話をして下さる、総代・世話人の皆さんです。よろしくお願ひします。

総代長		木村慎治さん（野波瀬）	
副総代長	松野行利さん（野波瀬）	総代	野村昭一さん（上東方）
総代	藤田平二さん（野波瀬）	総代	磯 昭正さん（沢江）
会計	吉見周平さん（市）	監査	藤村勇次さん（久原）

野波瀬西側	田中征二さん	市・湯免	吉見周平さん
	綿野節男さん	土手・中村・大竹	田中正幸さん
	宮崎忠彦さん	久原	宮本雅志さん
	青海隆司さん	向山	木村重彦さん
	大田宇三郎さん	上東方	西村正起さん
	岩本 勉さん	下東方・小島	河野光芳さん
野波瀬東側	藤永拓之さん	豊原	山中博道さん
	田村成治朗さん		山中博之さん
	石川義文さん		宮本 智さん
	江本富夫さん		坪野実人さん
	岩本国久さん	平野	山中洋介さん
辻並・中小野	松並唯夫さん	浅田・沢江 上ゲ・殿村	大田 貢さん



今年一年を振り返って

「誰の声を聞くのか」



今年も気がつけば、あつという間に終わろうとしていきます。いろんなことがありました。災害も

多く、今なお大変な思いをしておられる方もあり

ます。個人的にも、いろんなことがありました。しかし、節目が

あることで、振り返ることも、見直すこともできるのでしよう。

恒例の『今年一年を振り返って』のコーナーは、一年間の出来事

を散りばめながら、新たな年を迎える心構えを確認したいと思

います。

ある人生相談に寄せられたお話です。

その人の実家は自営業を営んでおられ、仕事場にはBGMのよ

うに一日中テレビがついていて、ニュースや情報番組、バラエテ

ィーが流れています。

家族みんな仲が良く、両親も優しい性格で、人の悪口を言つて

喜ぶような人ではなかったのですが、ここ数年、両親がよその国

の人を馬鹿にしたり、差別的な意見を言うことがとても多くなつ

たというのです。「あの国はこんなに汚くても平気で生活してい

る。信じられない」「某国人は平気で嘘をついて、意地汚くて、指摘されると逆に怒る」等、いわゆるヘイト（憎悪）感情に満ちた差別発言をするようになりました。それが、どうもテレビに影響されているようなのです。

その人自身は、日頃テレビを見ないのでありますが、試しに一緒に見続けていると、某国の細かいニュースが一日に何度も流れ、コメントーターが「こわいですね〜」という映像ばかり。見ていても嫌な気分になり、やんわりと「その国の人全員同じ思想なわけではなくて、報道で切り取られた一部のことなんだよ」と伝えても、「いや、絶対そんな事はない」と

聞く耳を持つてくれません。両親も過激な活動家になるつもりもないようなので、聞き流せばいいだけかもしれませんが、テレビの情報に鵜呑みにして他の国の悪口を言う両親と話すのが、とても嫌だということです。（『鴻上尚史のほがらか人生相談』）



考えてみればここ数年、ある一定の国々に対して攻撃的な発言をする番組が増えました。それも影響しているのでしょうか。今年の日韓関係は、戦後最悪となりました。この問題については私も色んな思いがあつて、ここではとても書ききれないのですが、一つはつきりしたのは「戦争の傷跡は、七十年以上経つても大きな影響を残すものだ」ということ。そして年月や条約だけでなく後片付けできるものではないのだという事実です。戦争というのは本当に恐ろしいものなのです。長年にわたり対立を、そして憎しみや悲しみを生み続けるのですから。

ところが五月には、そんな恐ろしい戦争を、安易に煽る発言をした若い国会議員がいました。結局、勇ましく威勢のいい言葉を使う人は、後片付けのことなど考えてはいないのです。後片付けは、コツコツと地道にするもの。そうして友好関係を築いてこられた人たち

の取組みを、声の大きな人が壊すのは、どこの国も一緒のような気がします。

また、仮想敵国を作り攻撃的な発言をするので、国民の不満のはけ口を作り、支持率を上げようとする政治家は、今やどこの国でも見られるようになりました（世界一の大国の大統領ですら…）。へ



あまりにも、軽い発言…

イト（憎悪）をまき散らし対立を煽ることが生み出すのは、憎しみの連鎖だけ。それは、はるか昔から仏教が指摘してきたことです。そして、その連鎖はやがて渦となり、すべてを飲み込んでいくことは、歴史が証明しています。

しかし、そんな声がテレビで垂れ流されているのも、事実なのです。平成から令和に元号が変わっても、ラグビーワールドカップで盛り上がりノーサイドの精神が讃えられても、一方では殺伐とした言葉が飛び交っていることは変わりません。

誰かを悪者にするので、問題を単純化し、自分を正当化する。いつしか、「こんな腐った世界は、滅べばいい」という思いとなり、破壊行為へとつながっていく。実はこれ、ここ数年来のアニメやドラマにおける、悪役のパターンの一つなのです。アニメやドラマでは、大抵その悪役は、主人公に負けてしまいか改心します。ところが、主人公を引き立たせるためにも、悪役は魅力的に描かれますから、悪役の言葉に自分の置かれている環境を重ね合わせ、共感する人々も多いようです。

そう考えると、七月に起きた京都アニメーション放火は、とても悲しい事件でした。数々のヒット作品を生み出した京アニの第一スタジオに、一人の男が侵入しガソリンを撒き、社員三十六人

が死亡した事件です。詳細は未だはつきり
しません、まさにヘイト感情に満ちた破
壊行為でした。

私は、アニメがヘイト感情を育てたと言
つもりはないのです。そうではなくて、私
たちの生き方は、誰の言葉を聞くのかとい
うことで大きく左右される。それによつて、
見える世界や生き方がまるで違うものにな
ることを、注視したいのです。穏やかな両親が、テレビから流れ
る過激な言葉を聞くことで、憎しみの渦に飲み込まれていくよう
に。ならば、私は一体誰の声を聞いているのか。よくよく考えな
くてはならないのでしよう。

浄土真宗では、「南無阿弥陀仏」のお念仏は、私が称える念仏も、
周りの人が称えた念仏も、「阿弥陀様からの呼び声である」と受け
止めなさい」と教えられます。

その呼び声は、間違つていても、愚かであっても、決して私を
見捨てることのない大きな慈悲に包まれていることに、目覚めさ
せてくださるはたらしです。だからこそ、安心して私の愚かさを、
小ささを、受け止めることができる。そして、そこからまた、何



本堂雨どい受け金具 取替工事が終わりました。

秋口の台風の強風により、本堂の雨どい受け金具が落ちました。よく見ると、根元が錆びていたのが原因でした。かなり大きな金具なので、人の上に落ちていたらと思うと...、ゾッとします。急遽、状態を確認し、金具をステンレス製に取り替えることにしました。高い本堂の屋根なので、足場を組む大規模なものとなりましたが、無事工事も終了。ホツとしているところです。尚、総代・世話人さんのご了解を得て、門徒会計より支出しましたことを、ご報告させていただきます。



度でも歩み直すことができるのだと教えられます。
そして、

「自分や世界を、小さな考え方で決めつけてはいないか」

「世界はもつと豊かだし、奥深いのだ」

「お前は、どこに向かって生きていくのか」

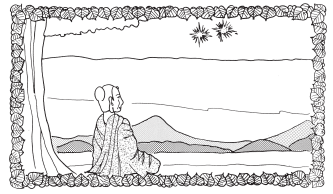
と響き、導き、育ててくださるのです。

私は、誰の声を聞いて生きていくのか。い

つしか、聞くべき声を見失ってはいないか。

新たな年を迎えるにあたり、今一度確認したいと思うのです。





極楽寺揭示伝道 けいじでんどう



12月の言葉

優しく、気が弱い、小学生の男の子がいました。彼は妹から、

誕生日プレゼントで消しゴムを貰もらいました。金額的には安くても、とてもうれしくて、彼は宝物たからもののように大切に使用もちしていたのです。

ところがある日、隣となりの席の子から「消しゴム貸かしてくれよ」といわれました。「大切なものだから、貸かしたくない。でも人が困こまっていたら助けてあげなくちゃいけない」。悩みながらも、彼は思い切つて貸したのですが、隣の子はいつになつても返してくれません。気が弱いから、なかなか言えない。だけれども、大切な宝物。だから思い切つて言いました。

「ねえ、消しゴム返してよ」

「ああ、どつかにいつちやつたよ」

「えっ！返してよ」

「お前けちだなあ。みんな俺に消しゴムくれよ」

あつという間に、四、五個集まりました。隣の子は彼の手に、集

まった消しゴムを渡します。

「ほら返してやるよ。けちー！」

彼は次の日から、学校に行けなくなつてしまつたそうです。

今の時代、消しゴムはすぐに、しかも安い値段で手に入ります。しかし、その子にとっては、大切な宝物。かけがえのないものだったので。

金額きんがくでしか判断はんだんできない人には、わからない世界がある。お金では買えないものがあり、売り渡すことができない、かけがえのないものがあることが。それがわからなくなつてしまうと、人の心を踏みにじつても、気づくことができなくなります。それだけではありません。自らのかけがえのなさを売り渡していることにも、気づけなくなるのです。

もちろん、お金は大切たいせつです。しかし、何のために大切なものが、見失われて

はいないでしょうか。私の大先輩が、若いお坊さんの研修会で、こんなことを言われていました。

「キミたちは、お金というものを汚きたないもののように思つてはいないか。お金は大事だいじなんだよ。僕たちはお金に、どれだけの恩恵おんけいを



受けているか。しかし、お金はいのちを守るために大切なんだ。ところが近頃は、お金を守るためにいのちを粗末そまつにしているのではないか」。

ちようどその頃、保険会社のコマーシャル「よく考えよう、お金は大事だよ」という歌が流行はやっていましたから、お金をどのように大切なすべきなのかを、よく考えさせられたことでした。

そもそも金額なんて、需要じゅようと供給ききょうで決まるものなのです。皆が欲しいと思えば、金額は上がるし、欲しい人がいなくなれば下がります。

何にでも金額をつける『開運かいん！なんでも鑑定団』という番組でも、鑑定士かんていしの人たちは「金額は高くつけられません、これはとても良いものです。どうか、大切にしてください」という言葉を、よく言われます。金額が、そのものの本当の価値かちとは限かぎらないのです。

そういえば『なんでも鑑定団』の初代司会者で、現在は芸能界を引退しておられる島田紳助しまだしんすけさんが、以前こんなことを言われていました。「年収一千万の男が買う十萬円のプレゼント



と、年収二百万の男が買う十萬円のプレゼントは、全く価値が違ちがう。重さが違ちがう。その違いがわかる女にならないとあかんのやー」と。ちようど「お金がすべて」といわんばかりのバブル真只中まっただなかのことでしたから、とても印象深く憶おぼえています。

同じようなお話に、『貧者の一灯』という仏教説話があるので。ある王様が、お釈迦様しゃかさまを招待しょうたいしたときのこと。宮殿きゆうでんからの帰り道を、たくさんの灯火ともしびでもしました。それを見た貧しい老婆ろうばが、自分も灯火きしんを寄進きしんしたいと、苦しい生活の中から何とかお金を工面くめんし、やっと一本の灯火をともすことができました。そこに強い風が吹いてきたのです。王様がともした灯火は、すべて消えてしまいましたが、老婆がともした一本の灯火は朝になっても消えませんでした。

まさに、金額では量はかれないものがあることを教えてくださるお話です。島田紳助さんは、真宗大谷派けいれつ（東本願寺）系列の大谷高校出身けいれつですから、もしかすると『貧者の一灯』のお話を聞かれていたのかもしれない。

私たちは金額では量れないものを、見失ってはいないでしょうか。お金は生きていく上でとても大切なものですが、お金の振り回され、人生における大切なものを見失うのであれば、本末転倒ほんまつてんたう

です。

『仏説無量寿経』に、仏様の智慧を疑う人は、七つの宝石でできた牢獄「七宝の獄」で、金の鎖でつながれるという譬え話があります。お金より大事なものが無い人にとっては、そこは素晴らしいところなのかもしれません。宝石に囲まれているのですから。しかし、宝石でできていても、牢獄なのです。金でできた鎖であっても、私を縛り付けるものなのです。

私たちの現代社会は、まさに七宝の獄といえるのかもしれない。私たちは、金の鎖でつながれているのかも。『本当に、求めるべきものは何なのか。よく考えなさい』と、仏様は私にはたらきかけてくださっています。■

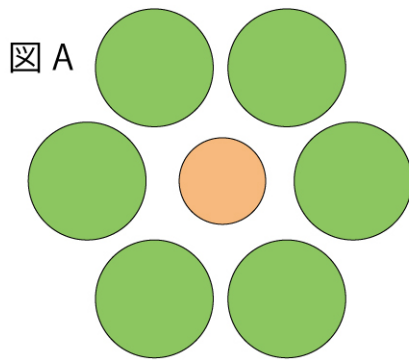


人にいじめられるより
自分にいじめられる方がつらい

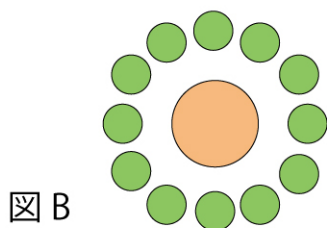
極楽寺掲示伝道

11月の言葉

「錯視」ということを、ご存知でしょうか。私たちの視覚的情報は、目から入ってきて脳が処理します。ところが、その処理の過程で、脳が錯覚を起こす場合があります。これが「錯視」です。例えば次の図を見てください。



中央の○の大きさは、同じです。



【図A】の中央の○と、【図B】の中央の○。実は、どちらも同じ

大きさなのですが、【図A】の方が小さく見えます。周りを囲む●が大きいと、中央の○は小さく感じてしまう。逆に、周りを囲む●が小さいと、大きく感じてしまうのです。

これは視覚的な情報だけではなく、私たちが生きる上での受け止め方にも、同様のことが言えるのではないのでしょうか。私たちは周りの環境や評価に惑わされ、自分自身を過小評価し、卑屈になることはありませんか。周りの評価を勘違いして受け止め、自分を過大評価し、傲慢にふるまうこともあるのかもしれないかもしれません。周りの評価や価値観に流されて、自分を見失ってははいないでしょうか。

あるサラリーマンの方が、周囲の悪口を気にして悩んでいた時、オカマバーのママさんに、こんなアドバイスを受けたそうです。

「ちよつとショックなこと言うけどさ、あんたがどんだけ努力しても、あんたの悪口を言う人って必ず居るのよ。それ理解しないと、悪口言われたら自分が悪いと思って、悪口言う人の意見ばかり気にしちゃうわよ。それってさ、逆だと思わない？」

これは、オカマバーのママさんだからこそ、味わい深い一言です。今でこそ市民権を得ていますが、これまでの人生、きつと周り



の偏見に晒されながら、様々な思いや葛藤があったことでしよう。それをくぐり抜けての一言なのです。重いはずですが。

私たちは、周りの意見、特に悪口ばかりを気にして、自分を見失ってはいいのでしょうか。悪口を言う人は、必ずいます。なぜなら、完璧な人間なんていないのですから。しかし、褒めてくれる人も助けてくれる人も、必ずいるのです。にも関わらず、悪口ばかりを気にするのは、人にいじめられているではありません。自分で自分をいじめているのです。あるカウンセラーの方は、「人にいじめられるよりも、自分にいじめられる方が、ダメージは大きい」と指摘しておられました。人にいじめられても、逃げ場があれば何とかありません。でも、自分にいじめられたなら、逃げ場はどこにもありません。周りの環境や評価に、私たちは影響を受けながら生きています。しかし、それに流され自分を見失わせるのは、どこまでも私の思いや判断なのです。私たちの思いや判断は、それほどいい加減なもの。仏教では、まずそれを前提とします。

金沢に真宗大谷派（東本願寺）の僧侶で、高光大船という先生がおられました。

「私はね、しゃばで、あんな温かい人に初めて会いました。／そばにいくと、ホコホコしたものです。今でも先生は、私のおなかに生

きとられます」

「みんなは先生を偉えらかったというけれど、先生は偉くないんです。先生は、私は私、あなたはあなたの境涯きょうがいで、みんな大きな世界に一つにいるんだ、



高光大船 師

ということを発見はっけんなさった方です。先生も私も、だれもかも、みんな偉えらくないんです。このごろの人間は他人のことばかりしゃべつとるけど、先生は自分を見るところを教おしえて下さくだつた」

こんな言葉が残のこっているほど、亡なくなった後も、多くの人たちから慕あこがれた方なたでした。

ある時、高光先生のお寺に、一人の女性が暗くらい顔かほで訪たずねてきました。その女性の顔を見るなり、高光先生はこう言いわれたそうです。

「いじめられてきたな。わしはお前まへさんをいじめた相手を知しつておる」

「どうして私をいじめた人を知しっているのですか」

「お前まへさんはお前まへさんにいじめられて来たのだ」

他人たにものの生き方ばかりを気にしているお前は、何者か。他を気にするのではなく、気にしている自分に気づかねばならない。まず問たずわれるのは、自分自身の思いや生き方なのだ。まさに「問たずわられている私の発見」を、高光先生は求められたのです。

私たちは、周りの環境や評価に影響を受けながらしか、生きることではできません。しかし、どんな人の声に耳みみを傾かたけるのか。それは、私の思いが決めることです。その思い自体が、実は仏様から問たずわられているのだと、教おしえられるのです。

奔放ほんぼうなる青春もあつた。失意しつゐの底で泣いたこともある。時代の混迷こんめいにあてどなくただよつていた。裏切られ、捨てられ、生涯貧乏であつた。恋もした。人一倍生きることに下手で、つまずきつまずき生きた人といえる。ただ大船だいせんは、生きることに真摯しんしであつた。ひたむきであつた。自分に忠実であつた。常に自分自身であろうとし、一切いっけいの虚飾きょしやくをはぎとろうとした。

〔直道の人―温かき仏者 高光大船―〕松田章一

阿弥陀様の光に照らされながら、真摯しんしに、ひたむきに生きた人がいた。周りを気にしている自分の思いを、問たずい続けた人がいた。つまずきながらも、偏見へんけんや葛藤かつどうの中でも、精一杯生きた人がいた。そんな人たちの歩みに、言葉に、耳みみを傾かたけていきたいものです。■

二〇二〇年 極楽寺のご法座

一月一日 朝十時(毎年) 元旦会

一月十四日～十六日(毎年) 御正忌報恩講

三月四日 春の彼岸会法要

講師 渋木浄土寺住職 荻隆宣師

四月十五日～十六日 春の永代経法要

講師 山口市正善寺住職 名護屋宗味師

五月二十一日(毎年) 清光仏教婦人会降誕会

六月十七日～十八日 夏法座

講師 福岡市西教寺住職 森哲人師

八月十四日～十五日(毎年) 盆法会

九月二十三日(毎年・秋分の日) 納骨堂追悼法要

十一月十九日～二十日 秋の永代経法要

講師 俵山正福寺住職 上原泰教師

十二月十八日(毎年) 清光仏教婦人会 報恩講

十二月三十一日(毎年) 除夜の鐘つき 初礼拝



ご法座には、
門徒式章をつけてお参りしましょう

門徒の正装は、門徒式章をつけた服装とされています。喜びも、悲しみも、仏様と一緒に。お参りの際は、式章をおつけ下さい。



□この時期は、お取越しや年末年始の準備で大忙し。正直、疲れも溜まっています。でもお取越しの際、少人数の人の前で法話をするのは、私にとってとても貴重な時間です。聞かれる人の反応で「ここはこうした方が…」「ここはもっと簡潔に…」などと、私自身が学び、育てられる時間でもあるからです。皆さんの反応によって、育てられ、話も磨かれていく。やはり住職とは、ご門徒によって育てられるのだということを、いつも思われています。□だからこそ、皆さんにお願いしたいことがあります。法話を聞く時は、ぜひ反応してください。「なるほど!」でも、「よくわからないなあ」でも結構です。無反応であったり、頭を下げたままで聞かれると、結構話しづらいものなのです。何とぞよろしくお願い致します。(住)

除夜の鐘つきのご案内

毎年大晦日には、おでんを用意して、除夜の鐘つきをします。熱々のおでんをほおばりながら、新しい年が明けるのを共に味わいましょう。懐かしい人と再会できるかもしれませんよ。
撞き始めは、夜 11 時 50 分より。終了後、初礼拝のお勤めをします。



つきはじめ
11時50分

元旦会のご案内

1月1日
朝 10時より

時間は約三十分。家族全員でお参りされる方もあります。

ぜひ、お参り下さい。わが家のお仏壇も打敷を

かけて飾り、新年を迎えましょう。

※ 参拝者には、記念品を用意しております。



お礼とご報告



リトップ収集
ありがとうございます

山口別院で換金され、県内福祉施設へ寄付されます。

今年は、6.55kg (空き缶約 21,833 個分)

たすけあい募金

本堂に設置した募金箱へのご懇志です。

合計 23,773 円

ありがとうございました。被災地への義援金として寄付いたしました。

お願い

物でお布施

家庭で眠っている物を、周りの人のために、活かしませんか。下記の物があれば、お寺までお持ちください。

書き損じはがき・未使用切手・商品券・未使用テレホンカード・ビール券など金券・CD・DVD・ゲームソフト・ゲーム機器



2020 (令和 2) 年

年回忌表

一周忌 2019(平成 31・令和元) 年往生
三回忌 2018(平成 30) 年往生
七回忌 2014(平成 26) 年往生
十三回忌 2008(平成 20) 年往生

十七回忌 2004(平成 16) 年往生
二十五回忌 1996(平成 8) 年往生
三十三回忌 1988(昭和 63) 年往生
五十回忌 1971(昭和 46) 年往生
百回忌 1921(大正 10) 年往生

※ お配りした、カレンダーの台紙にも、書いてあります。